

人体解剖学実習（天野カオリ）

Training of Dissection with human body (Kaori Amano)

キーワード

- ① 肉眼形態学
- ② 人体構造と機能
- ③ 正常解剖/個体差
- ④ 献体制度の社会的意義
- ⑤ ヒトを対象とする医学研究の指針

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ④
- ⑤

授業概要

系統解剖学講義終了後に実施する人体解剖実習において座学知識とリンクさせながら人体の構造について習得する。皮剥ぎに始まり、背部筋群と殿筋群、胸腹部筋群、上肢下肢筋群、頭頸部筋群、全身の神経走行・血管系走行、開胸、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、内分泌器官、リンパ器官、頭頸部深層、口腔・鼻腔・咽頭、喉頭・眼窩、脳の剖出と観察し特に個体差については十分注意払い剖出作業を行う。また厚生省が掲げる【ヒトを対象とする生命科学・医学系研究の指針改定版】ならびに死体解剖保存法を熟読する。

授業科目の学修目標

解剖学は全ての医療従事者が履修する最重要基礎科目であるだけでなく、医学部歯学部のみ実施が許される人体解剖実習を通して献体制度の社会的意義と個人情報的重要性ならびにヒトを対象とする医学研究の指針について十分理解した上で知識習得する事を目標とする。

授業計画

- ① 全身解剖実習 全28コマ
・解剖実習を通じて全身の構造を観察するとともに剖出器具の取り扱い、医療廃棄物の分別破棄方法、学部学生への教育対応体制について教授する。
・口腔解剖実習 全24コマ
全身解剖実習と同様事項を念頭に、頭頸部や脳については、高度な剖出技術を必要とする領域には最新の注意を払い剖出する手技を教授する。
・臨床解剖実習(5年) 全8コマ
病院実習期間中の歯学部5年学生が、臨床現場で重要性の高い主に頭頸部構造を再履修する貴重な場であるため、頭頸部について過去に国家試験出題された領域も含めて剖出を教授する。
- ② 学生実習を通じて医療従事者として解剖学教育の重要性と意義について教授する。
- ③ 人体には必ず個体差があることを念頭に、固定観念にとらわれずに剖出し、稀な症例を発見する目を養う方法を教授する。
- ④ 我流ではなく正確に美しく可能な限り再現性のある剖出技術を教授する。

実習担当教員 天野カオリ 小口岳史 志賀華絵

教科書および参考書

解剖学カラーアトラス(医学書院)、配布資料、動画教材

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

取り扱いに注意が必要な剖出器材に注意を払い、全解剖実習期間を通じて剖出技術を習得する。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 系統解剖学講義内容と実際に人体を解剖することによる知識を統合し習得する。
- ② 学生実習を通じて医療従事者として解剖学教育の重要性と意義について熟知する。
- ③ 人体には必ず個体差があることを念頭に固定観念に囚われずに剖出し稀な症例を発見する目を養う。
- ④ 肉眼形態学を学ぶものとして、我流ではなく正確に美しく可能な限り再現性のある剖出技術を身につける。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	20%	0%	0%	30%	50%	0%

評価の要点

- ・レポートは、実習期間中に2つの領域課題について自身で選択しスケッチを提出する。10%×2回=20%
- ・口頭試問は、各実習期間中の6項目について実習終了後に試問を行い理解度を判定する。5%×6回=30%
- ・実技は、実習期間中に剖出技術の達成度について判定する。50%

理想的な達成レベルの目安

理想的な達成レベルは80%以上とする。